

# 京都市動物園 京都の森 育成5年計画

## 目標景観の方針設定

### ●森林景観としての育成

現状は植栽後の年数が浅く、森に例えると亜高木層（中木層）が主となっているため、植栽木の生長を促し高木層を育成しながら、その日陰の発達ののちに低木層を植栽することで、森林景観としての階層構造の形成を目指します。山野の低木・地被類の植栽により、来園者が四季を楽しめる空間づくりを進めます。

また、現在は常緑樹が大成を占めているため、秋の紅葉の後は景色がさみしい上、京都の森エリアの棚田から奥へ向かって、動物のゲージ、敷地外の住宅まで視線が通り抜けてしまうため、常緑樹の補植を進めることにより、森の背景的な常緑の木立を形成するとともに、ゲージや住宅への視線を和らげます。

また、モミジの補植により、来園者に喜ばれる紅葉の景観づくりを行います。

### ●里の景観づくり

里の植物（樹木、足元の植物など）の補植を進めていくことにより里の景観づくりと、来園者のお楽しみ要素を、より展開できるようにしていきます。

景観の生育状況を毎年確認を行い、補植する植物の位置や種類を再検証しながら、京都の森の育成管理を実施していきます。

（補植を行う計画年数、本数などの現時点の目安は右の通りです。）

施肥による植栽木の育成を継続的に実施。

### 1年目（H28年度）

- 目標景観の方針設定
- 常緑高木・モミジの補植



### 2年目の目安

- 在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを5本 補植
- 里の植物（カキ）H4mクラスを2本 補植



### 3年目の目安

- 在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを5本 補植
- 里の植物の補植



### 4年目の目安

- 在来種の常緑高木（シイ・カシ等）H4mクラスを数本 補植
- モミジの補植



### 5年目の目安

- 高木による日陰の形成が進めば、林床に在来種の低木・地被類を補植

”京都の森”の育成管理を持続的に実施

京都の森 育成5年計画図 <2017年度から2020年度までの補植候補位置>

